あいつぐ放火　わが家とわが町を守りましょう

今年３月から池袋本町で放火事件があいついでいます。下の図は池袋本町で起こった放火事件の場所です。池袋本町二丁目に集中していますが、長崎や池袋でもたくさん起こっており、今まで放火されていない地区でも安心はできません。一晩に５件も放火された日もあります。火はゴミ屑やダンボール、自転車やバイクのカバーなどに付けられることが多く、それも道路ではなく敷地内での犯行が多いそうです。池袋本町での一連の放火は、気づくのが早く、消火器で消し止められていますが、板橋区の熊野町では１件の家屋が全焼しています。

この事態に対して各町会では夜警を続けながら注意を呼びかけています。年末には歳末警戒として特に重点的に見廻りを行います。とは言っても各家庭の備えがもっとも大切。放火されない環境を作ることが必要です。

★ゴミや燃えやすいものを出しっぱなしにしない。
★おやすみ前やお出かけ前には戸締りを確認する。
★物置や車庫には必ず鍵をかける。
★車などのボディカバーは防炎製品を使う。
★家のまわりは明るく保つ。
★見知らぬ人の行動に関心を持つ。

皆さんで協力して、安心して眠れる夜が一刻も早く訪れるようにしたいものです。

町会訪問⑦　池袋本町四丁目町会　名取会長を訪ねて

「将来への安心感」「守れる！」という自信

名取芳治さんは、3000世帯・1000名の会員から選出されて1988年（昭和63年）に町会長に就任され、1990年（平成２年）３月に池袋本町郵便局長を退官された後、1995年７月に豊島区11地区区政連絡会委員長に就任されました。また、池袋本町「防災まちづくりの会」結成以来の会長もされて、ご多忙な日々を送られてます。

四丁目町会は、東武東上線北池袋駅前の北側、池袋本町四丁目１番１号と駅前通りの３番４号の角から北に向かい、東はＪＲ社宅の板橋区との区境までと、西は池袋本町通り沿いの36番６号から下板橋駅を含めた43番２号の区境までの地域です。

５年前、ＪＲ社宅の南側（元食料倉庫）にマンション「シスナブ」が出来たことによって本町地域一の世帯数となりました。四丁目町会では、ほかの町会と同じく防災訓練、盆踊り、お祭りなども毎年開催し、防災部が定期的にポンプの点検をしています。

名取さんは２年前の四丁目町会の地元で起きたオウムの時の「対策・監視行動」に触れられて、この体験は貴重な体験だったとおっしゃいます。池袋本町での「オウム対策」については、新聞等でも「単に地域エゴではない」と評価されましたが、「将来への安心感」を感じたということです。そこには気持ちの「合わせ合い」があったということなのです。仮に、もし将来災害が起きたとしても、本町を「守れる！」と自信もって言えるとおっしゃいます。町会に入っていない人たちのことについては、町会員になるかならないかは本人の自由だし、町会に入っていなくも毎日の生活は何の支障が無くできるけれども、近所の人たちと「何らかの関わりを持ってほしい」ということです。

最後に、名取さんに、町会の「モットーは？」と伺うとすかさず「融和」という言葉が返ってきました。これは名取さんのお人柄に通じる言葉でもあると感じました。（取材：青山）

池袋本町 防災まちづくりニュース
Ikebukuro Honcho Bosai-Machizukuri News
no. 19
平成12年11月18日発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区まちづくり推進課
問い合わせ先：
（財）豊島区街づくり公社
TEL 03-3981-1683
編集協力：（株）防災&都市づくり計画室

防災まちづくりの会だより

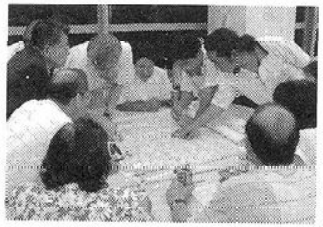
道路部会要望書を提出

地区内の防災上重要な道路について整備を検討している道路部会では、７月に行った道路の点検の結果を取りまとめ、東京電力、ＮＴＴ、豊島区に対して要望書を提出しました。

要望の骨子は、災害時にも緊急車が通行できるように道路の有効幅員を広げることです。そのために、ＮＴＴに対しては電話線を東電柱への共架にして、電柱を撤去すること。東電に対しては通行の障害になる電柱の移設。豊島区に対しては通行の障害になる標識等の移設を、それぞれ要望しました。

拡大災害時活動部会　図上訓練を実施

ＪＲ跡地の利用方法について、災害時活動の観点から検討を行うのが、災害時活動部会の役割です。部会では災害時にどのような活動が必要になるかを、図上で想定してみる訓練を行いました。訓練には、防災まちづくりの会、ＪＲ跡地検討会の有志の方も参加し、合わせて32名で行われました。



訓練は救援センターごとの３つのグループに別れ行いました。各グループでは参加者が本部、情報連絡係、救出救護係、避難誘導係、消火係になります。与えられた状況は３つです。最初は、大きな地震が発生し、家屋が倒壊して生き埋めになっている人がいるという状況。次に火災が発生し延焼しているという状況。最後に被害は一段落したという状況です。それぞれの状況の時に各係はどのような対応を行うか、どういうふうに連絡するか、救助や消火には成功できるかなどを話し合います。そして、ＪＲ跡地に整備される防災センターには何を期待したいかを考えます。

訓練では、町会によってすでに対応策を考えている所と、あまり考えていない所があることが判ったり、訓練とは言え地震が起きたら大変なことになることが改めて判ったという意見が開かれたりして、有意義なものになりました。

つれづれに一言

跡地の有効利用について

防災とは災害を未然に防ぐか、又は災害が起きてもその被害を最小限に押さえる事であると思っています。また災害には地震などの自然災害がありますが、病気の流行などの災害もあると思います。

この文が出る頃には、「インフルエンザの流行」が話題になっていると思います。何事も予防が大切。こんな意味から考えると、人類の英知も見方によってまちまちで、間々まとまらないと思います。看実に地元の住民にとって悔いの残らない跡地の利用でありたいと願っています。老齢化は百パーセント来ます。地震の確率は?。老人ホームを作りた～い。

（池袋本町一丁目　田村医院　田村　仁）